

【ねがいましては】

平成13年11月27日

第140号

KYOWA SCHOOL

「評価」

地元中学校の定期考查も終わりました。

前回のオリンピックのときに、アフリカの選手が水泳で溺れそうになりながらも必死で泳ぎきったとき、会場から割れんばかりの拍手が沸き起こった事を思い出します。このときの映像をご覧になった方々のほとんどが、「立派であった」とお感じになったはずです。

その当事者が「我が子」であったとしたら、やはりお子さんに尊敬の念と誇りをお感じになるはずです。ここに大きな矛盾が見え隠れしています。

どんなに必死に今までにない努力をしていながらも、戻ってきた学校の成績に、順位に、「相変わらずね。」と、冷めた評価をお子さんがされたとしたら・・・

もし私なら、もう二度とこんな努力などするものか、こんなくらいならやらぬ方がました。と、開き直ると思います。

お子さんは、勉強が自分のためのものだと知りながらも、やはりご家族の方々の一言一言にはとても敏感です。最も気にするのがお母さんの一言です。

この教室の子供たちは、実に良くやりました。自分のペース配分に配慮しながら、自分歩きを着実にこなして行く3年生、やっと中学生活になじんできて、「定期考查」というものの価値観が自分の中に芽生え、歩き出した子。その誰もが共通した取り組み方をしていました。

「個」です。自分がしっかりとあることです。他人との比較のない「取り組み」をしています。

結果、輝いているものがあります。「瞳」です。彼女たちは、私に質問攻めの総攻撃を仕掛けけてきます。私がある子に説明しているとき、他の子は決して歩みを止めずに他の具体的なものを探し歩きます。無駄な時間がありません。これだけやって、じゃあ恐ろしいほど成績が上がるのだろうと思いますが、そこがお母様たちの大きな誤解になります。

彼女たちのスタートは、小学校、いや幼稚園、いやそれ以前からのものをぶらさげて、そこからスタートしています。つまり、精神的な「壁」を持った子は、その壁を打ち壊す所からのスタートになるのです。その壁は、大きくて分厚いものです。

その壁の正体とは、「悪い成績だとしかられる」です。子供たちは、もう十分に自分がどの位置にあるかをしっかりと知っています。一番つらい思いをしているのは、本人です。そこへ追い討ちをかけて、母の一言・・・これが恐ろしいほど本人を「勉強臆病者」に仕立て上げます。

が、時間の問題です。必ずいつか、「ドカン」と伸びるときがきます。必ずです。この教室の誰もがそれを信じて疑いません。全員がそれを感じているからです。

さてみんな、中学生諸君、この期末は実に良くやったね。机に向かう事がつらくなくなったね。比べのない、助け合いの勉強、自分のスピードで歩く事の楽しさを大事にして、さあ3学期期末テスト、楽しみだね。成績？順位？・・・みんなでからかいあって楽しもうよ！

12月の予定

種目別塾内検定試験・・・12月よりスタート TV放映のアッシュ暗算もあります

3日（月）珠算・暗算検定試験合格発表

9日（日）作ろう！年賀状デー 「ポケモン」「ハムたろう」などのイラストがたくさん！
年賀状（イケダエットタイプがいいです）を用意しましょう。お友達もOKです。

午前11時～午後4時まで

22日（土）クリスマス会・・くわしくは別のお手紙で・・・

好評！栗田のランチ冬期講習・・これも別のお手紙で・・・